

ふくしまは、まけない!! 復興を牽引。女性経営者たち

ガンバル

これから安心して安全
をお客さまに届け、明
日への元気のお手伝い



うめぼし運転代行
代表
市川羽磨子さん
(田村地区)

■事業内容
お客様に安心と安全をお届けする運転代
行業

3月11日の震災の時は、ち
ょうど軽自動車協会で車両の
登録の手続きをしているとこ
ろでした。揺れ始まったとき
にも事務所の女性に書類を処
理する様にお願ひして、
その女性から「に、逃げなく
て良いんですか?」と聞かれ
たほどで：(笑)。そのうち
天井から埃の様な物が落ちて
きて、これは危ないなと思っ
たんですけど、車両の登録の
方が大事ですから。地震の
揺れがとやあえず収まったと
ころで、「書類は出来たんです
が、オンラインシステムがダ



女性が活躍する場には、笑顔と元気があふれています。同友会も
県内142名の女性会員に支えられ、震災に立ち向かっています。
それぞれの「当日」から、「復興」への想いをインタビュー!!

ウンしてしまつて登録できま
せん」と言われ、仕方なく帰
つて、結局1週間後に出直し
て車両の登録をしました。

運転代行の仕事は夕方から
始まるのですが、電話も通じ
ないしどうしようかと思つて
いたんです。でも社員の皆さ
んは事務所に全員来てくれま
した。事務所は停電もなく、
断水もなく、ネットも繋がる
状態でしたが電話が繋がらな
いと仕事になりません。

仕事の為に空けてあつたの
にすることがなくなつてしま
つた社員は、夕方から事務所
に集まつてきて、しばらくは

サロン状態になつてしまいま
したね。とりあえず電話が繋
がる様になるまでは自宅待機
をお願いしました。

ガソリン不足の問題もあり
ましたが、朝一番で営業をす
るか聞いてまわつて、そのお
店に並んで給油してました。
優先的に給油してくれると言
つてくれたスタンドもあつた
んですが、そういうのはなん
かずるい気がして：。

3月11日からもうすぐ半年
ですが、おかげさまで売上げ
は増加しています。田村から
郡山に飲みに行った帰りに使
つてもらいたくて、郡山市に
営業範囲を広げました。その
為、社員、車の増強をしてい
ます。

いつもと変わらず、普通に
仕事をして、お客様に気持ち
よく帰つてもらおう。弊社を利
用してもらふことで、安心と
安全をお客様にお届けしたい
と思います。そして、楽しく
飲んで、明日も元気に働いて
下さい。その為に私たちがい
ます!

同友会会員の英知を もって福島復興を



(株)アース・ヒューマンライフ
代表取締役
樽川桂子さん
(福島地区)

■事業内容
人と土と緑と水の健康をテーマに、特許取得
の有機肥料の製造卸。フラワーアレンジメン
ト教室(予約制)、ノニ関連商品販売、ほか

3・11地震の瞬間、樽川さん
は2日前に企業訪問した、同友
会いわき・相双地区の皆さんに
事務所でお礼状を書いていると
ころでした。もの凄く揺れて、
備品・裝飾品も落下し壊れてし
まいました。コーヒーがこぼれ
た書きかけの手紙を今もとつて
あるとの事です。

肥料の製造販売が仕事の柱で
すが、石巻の生産工場が被災し
て現在商品が作れない状況で
す。すでに次の注文が来ている
ために困っています。実はア
ース・ヒューマンライフの肥料に
は、フルボ酸鉄を多く含んでお
り、放射能に汚染された土壌の
改善が期待される商品なのです。
復興のために活用する事を行政
に提案中です。ビジネスパー
ナーである仙台的飯沼勇義先生
は、大津波襲来を16年も前から
警告していた専門家です。最近
出版された飯沼先生の著書「3・
11その日を忘れない」には、樽

川さんの体験談も多くの頁にわ
たり掲載されています。飯沼先
生の講演会などに同行し、多忙
になつて、先日は村井宮城
県知事との意見交換会もありま
した。その時樽川さんも復興の
提案を知事に直接されたのです
が、民間の意見を積極的に受け
入れる宮城県動きと比較する
と、福島県の復興の動きが非常
に遅れている気がしてなりませ
ん。特に放射線対策が進んでお
らず、福島土壌は、早急に何
とかしなければならぬと強く
感じています。農家が大打撃を
受けたままですと、農業県であ
る福島は存続できなくなつてし
まいます。

子育てを終え、今後の人生は
地球環境を良くする活動をした
い、と会社を立ち上げた樽川さ
んには地域への熱い想いがあり
ます。「会員1700名の同友会
の力。皆さんの英知を出せば、
福島の復興は必ずできます。復
興に向けての活動を会の柱に据
えて取り組んで欲しい」と強く
望んでいます。



▲飯沼先生の著書
「3.11その日を忘
れない」

▲フルボ酸鉄を
多く含んでいる
有機肥料

復興をガンバル 女性経営者



庵 はづき(いろり はづき)

吉川恵美子さん

(会津地区)

■事業内容 呉服販売業

3月5日からの店外催時を終え、後始末におわれながらも、ほっとしていた時でした。余りの強い揺れにスタッフと共に外に飛び出して、身を寄せ合っておりました。当分お店は開店休業状態になると考え、せめて店の前が花でいっぱいになったら、通る人も少しは明るい気持ちになって下さるのではと思い、翌々日からせっせとお花を植えておりました。電話も通じない中、お客様の安否が知りたくて、お元気ですか？とのお手紙を書きました。どんな時でも、お客様の心を豊かにできるお店であろうと思っておりますので、震災後の行事は予定通り行いました。

売上は、最初に覚悟した通り減少しております。でも、ここ2ヵ月位はお客様の買物に対する気持ちが以前と同じように戻ってきているのを感じ

じています。

「商いを通じて知り合った仲間やお客様と何か出来ないものか」そう考えてチャリティーコンサートや放射能についての講演会を行いました。そして、集まった義援金を他地区の女性会員さんや「つながろう南相馬」の方々を通して相馬市長さんへ渡していただきました。自分のできる事をする事で、それが誰かの役に立ち、お客様の生活の中でほっと出来る場所になり、行くだけでも元気になるお店づくりを目指し、これからも頑張っていきたいと思っております。

当店の主力商品である着物は不急の物ですし、生活していく為には不要の物です。でも心豊かに生きていく為には必要な物です。

どんな時でも美しく生きる事は元気である為に必要な事です。物を買う事は心を買う事、絶対に生きる力の役に立てる。と考えて、ためらわずに行動し、そして、常に自分に言い聞かせています。



▲コンサート



▲義援金



▲お店

震災が気づかせてくれた絆の大切さ



(懶うおしん 代表取締役)

佐藤君榮さん

(いわき地区)

■事業内容 総合結婚式場「カルチェドシャン・ブリアン」、宴会、仕出し

佐藤さんは、同友会いわき事務所へ車で向かっている最中に大震災に遭遇しました。まずは、館内に100名以上いるお客様のことが頭をよぎり、すぐに会社へ引き返しました。社員がすでにお客様を館外の安全な場所に誘導して

いましたが、相双方面からのお客様へマイクロバス送迎を既にしていて、出発後に津波を知りました。道路状況も大変な中、翌朝3時にバスが戻ったと連絡が初めてついた時には本当に安堵したそうです。原発事故や断水の影響もあり、地震後は社員の多くが県外に避難しました。家族の多い社員には、会社のマイクロバスを貸し避難してもらいました。佐藤さん自身も会津に一時避難しましたが、それを聞きつけた会津地区会員の皆様から、生活用品一式を提供して頂いたり、お母様の介護施設もすぐに入所できる手配をして頂いたりとすぐに対応して頂き、会津の同友会の皆様に感謝しているそうです。

仕事の方は、御祝が自粛ムードであり、また県内に入る事を心配する方が多いので、結婚式をする方が少ないそうです。また、小名浜地区の多くの会社が津波被害にあっている為、なかなか宴会も以前のようには戻りません。震災直後より同友会からe・d・o・y・u等で発信されてきた経営情報をしっかりと見て、対応してきました。本当に同友会に入っていて良かったと感じたそうです。

「やはりこのような大震災

後でするので、無理をしない、くよくよしない、自然に逆らわないで元気に今出来る事を一つずつやっていこうと思えます」この震災で多くの人に助けられました。人に感謝する気持ちを忘れず、人との関わりを多く持ち、絆を強くしていきたいと思えます」と佐藤さん。今後は事業継続を最優先に考え、後継者に渡せる会社になりたいと考えているそうです。「これからもお互い学ぶ姿勢を常に持ち、前向きに不倒不滅の会社経営を目指し頑張っていきましょう」

常に明るく前向きな姿勢の佐藤さんでした。

(レポート/侑窓花 渡邊久美子)



▲「カルチェドシャン・ブリアン」の外観



▲いわき市小名浜にお越しの際は、是非、お立ち寄り下さい